学齢期放課後支援
アンケート

（大津市障害者自立支援協議会）

このアンケートの目的

- コロナによる学校休校期間、障害のある子どもと家族はどのように過ごしていたのかを知る。
- 第1波は、誰も初めてのことでわからないことが多かったから、失敗もしているのは当然。
- 第1波の私たちの対応を振り返り
「よかったこと」「修正が必要なこと」を整理して、第2波に備える。

アンケートの速報

実施主体：大津市障害者自立支援協議会

対象：大津市内在住、学齢期（小・中・高）の障害のある児童の保護者

アンケート実施期間：2020.6.1～14

方法：
大津市障害者自立支援協議会HP上にあるGoogleフォームより回答

周知：
大津市内の放課後等デイサービス事業所、相談支援事業所から利用者に周知。養護学校から児童・生徒に周知。

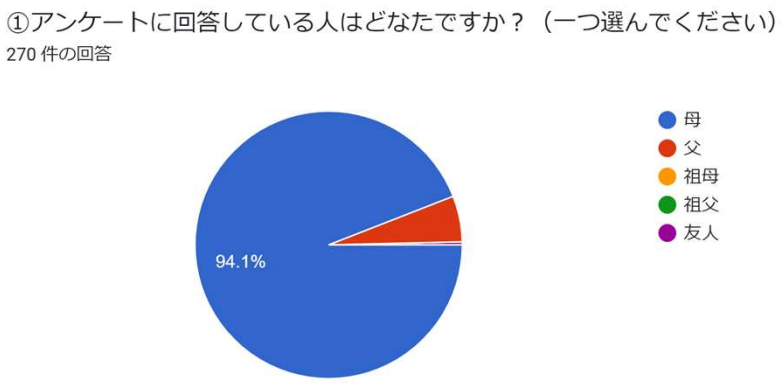
大津市の学齢期障害児の手帳所持者数

身体障害者手帳	161
療育手帳	704
精神保健福祉手帳	52
合計	917

複数持ってる人はダブルカウント

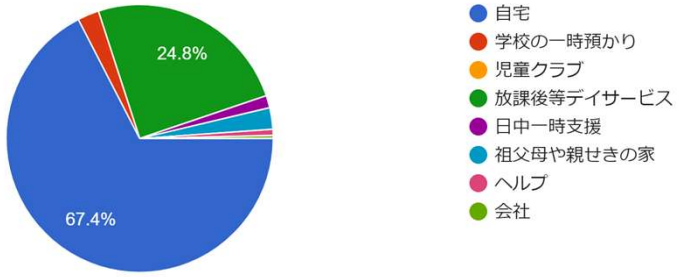
全回答数　270件

回答者は母が多い。



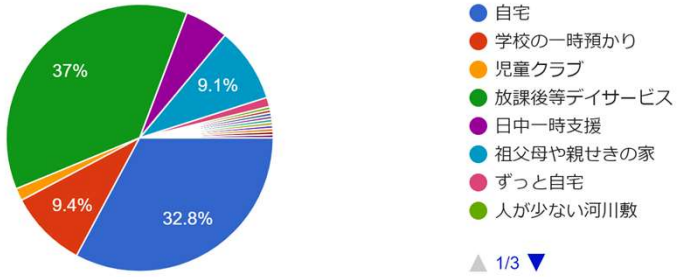
平日昼間、一番長くいたのは自宅

⑦学校休校の間、平日昼間（8:00～18:00）に…ごした場所はどこですか？（ひとつ選んでください）
270 件の回答



平日昼間、2番目、長くいたのは放課後デイサービス

⑧学校休校の間、平日昼間（8:00～18:00）に…した場所はどこですか？（ひとつえらんでください）
265 件の回答



保護者が困ったこと（暮らしの中で）

- 生活リズムの乱れ、3食の食事作り、過ごす場所がないなどが高い。障害のない子どもの家庭でも困ることは同じ。
- しかし、生活リズムの乱れに関しては、障害のある子どもは学校が始まってから元に戻るのか、という不安の声が複数。
- 学校の課題を教えるのが大変という声が34.4％
（教育の素人の親が障害児に勉強を教えるのは無理という記述も）

保護者が困ったこと（感染について）

- 親が入院したら？子どもが感染したら？の不安の声が多い。
- 子どもが感染予防行動をとれない。（25.9％）

子どもの変化

- 生活リズムが乱れた55.6％
- 子どもがイライラしていた28.5％
- 子どもが運動不足で太った25.9％
- 子どもが運動不足でイライラしていた20.0％
- 子どもが夜眠りにくくなった23.0％

逆に、「学校に行かなくて落ち着いていた」
「きょうだいで仲良く遊べた」という記述も。

子どもの過ごし方

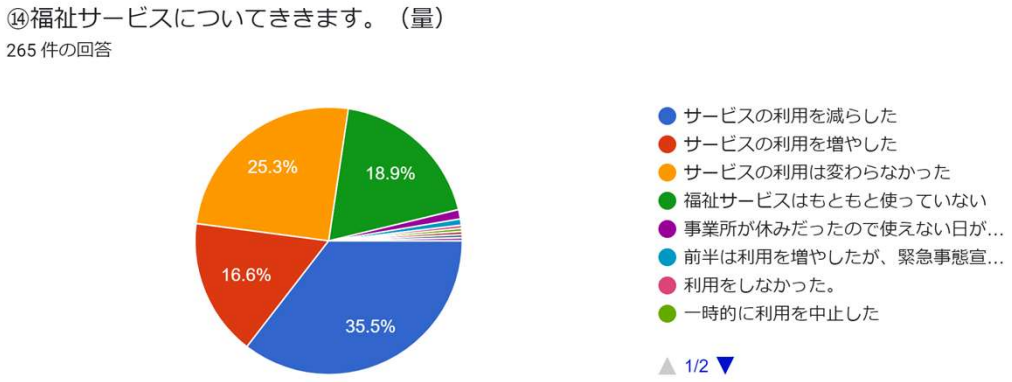
- テレビ、DVDが圧倒的　82.2％
- ゲーム　58％

相談相手

- 家族、親族が圧倒的　67.3％
- 放課後等デイ　27.3％
- 学校の先生　24％

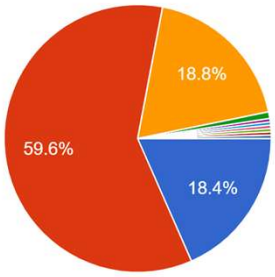
☆相談支援事業所が少ないのはなぜか　5.2％
☆公的機関の少なさが際立つ
（大津市障害福祉課ゼロ、すこやか相談所ゼロ、児童相談所ゼロ）

福祉サービスの量
（減らした人も、増やした人も）



福祉サービスの内容は6割が変更なし

⑮福祉サービスについてききます。（中身）
250 件の回答

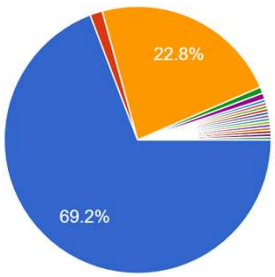


- サービスの内容を変更した（行き先等）
- サービスの内容は特に変えていない。
- 福祉サービスはもともと使っていない。
- 送迎
- 利用をしなかった。
- 一時的に利用を中止した
- 休ませてもらっていた
- 祖父母にうつすことが怖くて全てキャ…

▲ 1/2 ▼

健康状態が悪くなった人が　22.8%

（あと5問です）⑲ご自身の健康状態について、学校休校期間の前と比べて変化しましたか？
263 件の回答



- かわりない
- よくなった
- 悪くなった
- 頭痛がつづきコロナうつと診断された
- 主人は単身赴任中でおらず、一人で三…
- 一時悪かったが、回復した
- 疲れやすい
- イライラしていた。

▲ 1/3 ▼

具体的な体調の変化

＜心配な項目＞

- 肩こり
- 疲れが取れない
- ちょっとしたことでもイライラする
- やる気が出ない
- 子どもの世話をする気が起きない

学校に「こんな風にしてほしかった」

- 登校日を増やしてほしい
- 登校日を1日にしてほしい
- 分散登校してほしい
- オンライン授業してほしい
- 家での過ごし方のアドバイスが欲しかった

☆家での過ごし方のアドバイスは、感染リスクがないので取り組みやすいものではないか。

福祉に「こんなのがあったらよかった」

- 「とくになし」が半数近いことをどう見るか。
- 放課後デイや日中一時をもっと使いたかった。
- 気軽に相談でき着る窓口、障害者専門の相談窓口への希望

☆相談体制の弱さと、相談窓口の周知不足
☆「サービス調整のみが相談支援専門員の仕事」と思われてしまっていると、「相談しても、どうせコロナでしょうがない」とあきらめてしまって相談されないのではないか。
本来の相談、悩み事を話す対象となっていないのではないか。

全体を見渡して…　（放課後支援）

- 放課後等デイサービス対しては感謝の言葉が多い。

「感染予防しながらあけてくれて助かった」
「放課後等デイサービスがなかったら大変だった」
「感謝している」

一部、「あそこの家は使えるのに、うちは自粛」などの
他者と比較しての不満がある。→丁寧な説明が必要。

全体を見渡して…　（学校）

- 一時預かりで預かってもらえて助かった
- 一時預かりの基準が厳しく預かってもらえなかった
- 先生が連絡をくれてよかった
- 先生がDVDを作って送ってくれてうれしかった
- 学校は何もしてくれなかった

→両方の声がある。
→担任の先生の対応によるのか？学校長の方針によるのか？

全体を見渡して…　（相談）

相談体制の弱さと、相談窓口の周知不足
（滋賀県に専門相談窓口があったのに…）

相談相手として選ばれなかったことをどう考えるか。
　相談支援専門員、大津市障害福祉課
　すこやか相談所、児童相談所

＊子どもをみてくれている放デイや学校の先生のほうが相談しやすいということは理解できるが…。

全体を見渡して…　（感染不安）

親が入院したら子どもは誰が見るのか
子どもが感染したら、入院先に親は付き添えるのか

→滋賀県の方針の周知が必要
→その方針が大津でうまく機能するのか

回数の平等と、事情の平等

利用制限、学校の一時預かりの条件について

- 重度なのか軽度なのかだけで決めないでほしい
- 祖父母が元気でみてくれる家とそうではない家
- 事情を鑑みてほしいという声と一方で、
「あの家ばっかり利用して不公平だ」という声。
（たぶん、事情を鑑みて特定の家族に利用してもらったら、その噂が流れてほかの保護者から不満の声が上がった。）

コロナ前の生活でよかったのか

- 学校に行かなくていいことで、安定していた子ども
- 腹をくくって仕事を休んだら子どもとかかわれたという親
- 在宅ワークで子どもの姿を知る機会になったという父
- 家族でゆっくり過ごせてよかったという声
- 福祉サービスに頼りすぎていた自分の暮らしを見直す機会だった

→コロナ前から、生活にしんどさがあった。気がつけたという声。

２波、3波に備えての課題（１）

「学校は休校」でも、
「放課後デイは開所してください」

- 放課後デイの事業所は、そんなに広い場所じゃない。もちろんグランドもない。職員体制も脆弱。利用者減で、収入も減る。そこに、子どもを押し込んで、3密を作って感染リスクにさらしていないか。学校と放課後デイで居場所を分け合えば、感染リスクはもう少し下げられるのではないか

２波、3波に備えての課題（２）

「相談」「アドバイス」について

- 相談窓口の周知徹底
- こちらから、電話やオンラインで「いかがですか？」と働きかけることはできないか

「相談」ということについて

- 「相談」は相談支援専門員の専売特許ではない。だれでも。
- 特に今回のような「同じ場所を共有できない」時には、こちら側から働きかけをする必要性が高まる。
- しかし…、

「解決策を持てていないのに、“大丈夫ですか？”と電話するのは気が引ける…」→

解決策を持てていない時こそ必要な相談

どうにもならない中での相談
↓
共感、一緒に悩む。「しんどいですね」「大変ですよね」
↓
少なくとも、しんどいことを知ってくれている人がいる
一緒に悩んでくれる人がいる
↓
孤立を防ぐ
SOSを出しやすくしておく
虐待、ネグレクトを防ぐ

あるお母さんの自由記述

学校(養護学校)からはこまめな連絡や先生方からの絵本や手作りＤＶＤ等、
子ども達を心配して何かしてあげたいという気持ちがとても良く伝わり有難かった。

→解決をしたかという結果ではない
「気にしているよ」「忘れてないよ」
というメッセージが大切

相手が具体的な解決策を求めている場合

- 相手が具体的な解決策を求めている場合は、ある程度の解決策も提示する必要がある。
- しかし、現実問題見つからない時もある。その時は、いま、可能な選択肢を用意し、すべて望み通りにはならなくても、これならできる、という現実的な案を提示する。

「共感が欲しい人には」→「共感」
「解決策が欲しい人には」→「具体的なアイデア」

２波、3波に備えての課題（３）

- 宿題を出しすぎすと、親がしんどくなっている。
- 親にがんばらせる課題をだしすぎない。
- 家で楽しく過ごせるような取り組み、提案を。

２波、3波に備えての課題（４）

学校、放課後支援、相談窓口の連携

・連携シートの活用を強化
（今のうちに連携しておく）

アンケートの活かし方

- トライアングルプロジェクトで共有
（学校、放課後支援、相談）
- 放課後等支援部会で報告
- ホームページで公開
- 利用目的を確認して、今後に活かすために読みたいという研究者や学校の先生には自由記述付を配布（ほかには出さないという条件）